

今日からできる、
高校ボート部の小さな取り組み

京都ローイング協会副会長

藤井範久

■01.遠征時や合宿では携行品に「マイ箸」

大会遠征時や合宿時には、トレーニングウェアの他、部員全員が食事を利用するための「マイ箸」を持参しています。

約部員30名の部員が活動していますが、割りばし（使い捨て・ゴミ）を「3食分×日数」削減するだけでも、ごみを削減する効果があります。

（伏見工業高校ボート部、京都工学院高校で実施しています）



■02.レースや遠征時の宿泊所では、宿泊先の客室清掃をお断りしています。

掃除にかかるエネルギー（掃除機・1回使用しただけのシーツの取り換え）が削減されます。お世話になる宿舎への敬意をこめて、使用する場所を丁寧に扱うことに加え、出来ることは自分たちで行うことを徹底しています。



■03.練習中に浮遊しているゴミ（主にペットボトル）は可能な限り回収しています。

目に見える活動の一つとしては、気づいたことに対して積極的に行動に移すこと。
「ゴミ拾いの活動をしよう」と心がけて行うことも大切なことですが、
日常から、当たり前前の行動として、練習中に見かけた浮遊ゴミの回収を行うようにしています。

ゴミを捨ててよい環境はどこにもありません。
捨てられたゴミは、誰かが回収しなければいつまでもそこに残り続けます。
ゴミをなくすことは難しくとも、ゴミを適切に処理する行動をとることができれば、
いつまでの綺麗な水域を保つことができます。



以上が、取り組みの一例です。

全ての人が、今日から取り組める小さな取り組みではありますが、
これらが当たり前になれば、ローイング界全体から大きな一歩を踏み出せるのではないかと感じています。

一つの高校ボート部が行う活動を、是非選手や関係者の方に広まればと思い、
ご紹介させていただきます。